

## Ⅲ 調査結果

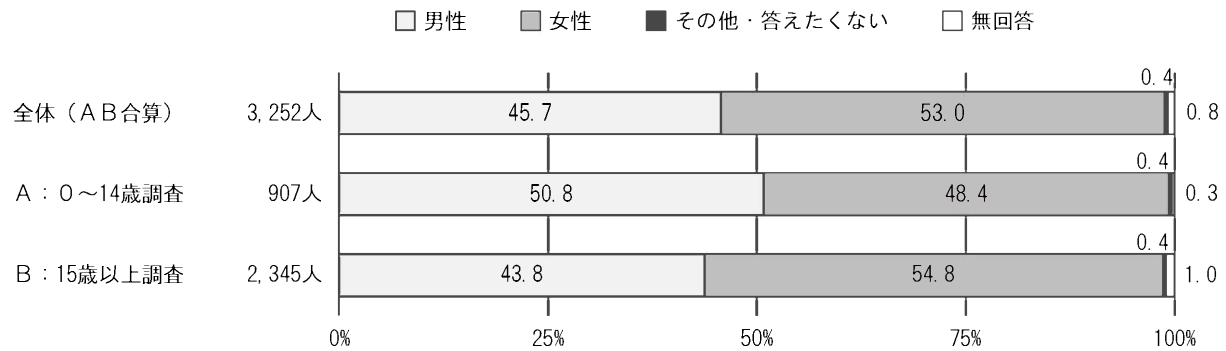


# 1 基本属性

(1) 性別を教えてください。(〇は1つだけ) < A・B共通 問1 >

回答者の性別は、0～14歳調査では「男性」が50.8%、「女性」が48.4%、15歳以上調査では「男性」が43.8%、「女性」が54.8%、全年齢（AB合算）では「男性」が45.7%、「女性」が53.0%となっています。

図1 性別〔全体〕



(2) あなたの年齢を教えてください。(数字を記入) (令和3年6月1日現在の満年齢)

< A・B共通 : 問2 >

回答者の年齢は、0～14歳調査では「6～14歳」が50.7%と最も高く、15歳以上調査では「60歳代」が17.8%と最も高くなっています。

性別にみると、0～14歳調査では男女とも「6～14歳」が最も高く、15歳以上調査では男女とも「60歳代」が最も高くなっています。

図2.1 年齢 (A : 0～14歳調査)〔全体・性別〕

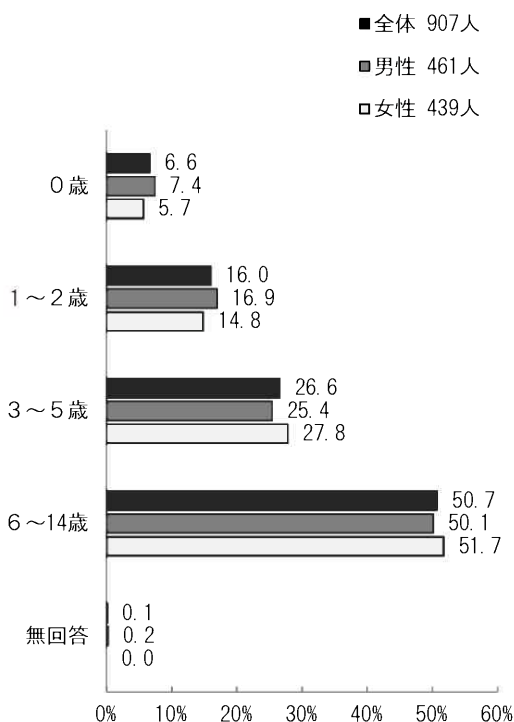
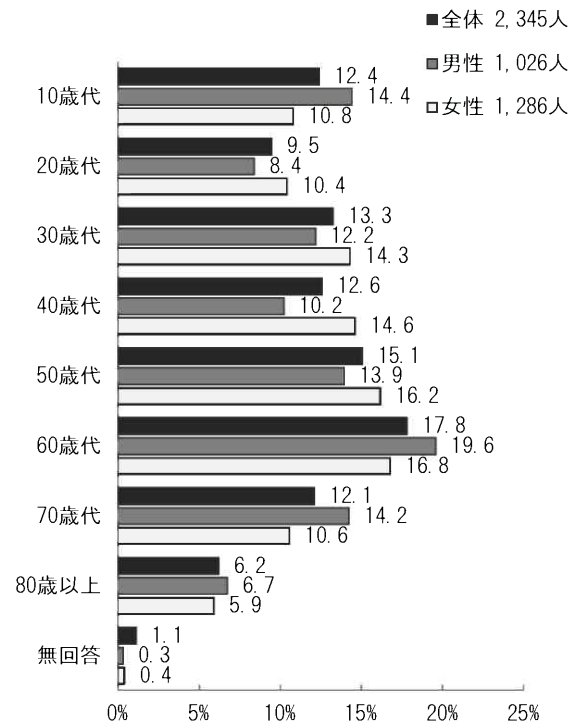


図2.2 年齢 (B : 15歳以上調査)〔全体・性別〕

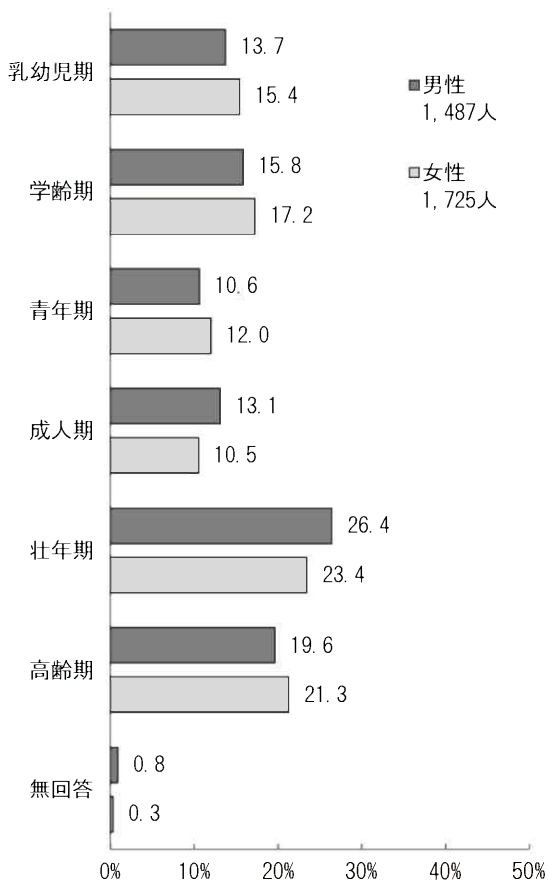


### Ⅲ 調査結果

ライフステージ構成割合を性別にみると、男女とも「壮年期」が最も高く、男性が26.4%、女性が23.4%となっています。H23年調査と比較すると、男女とも「壮年期」の割合が高くなっています。

＜各ライフステージの年齢＞  
乳幼児期：0～5歳  
学齢期：6～15歳  
青年期：16～24歳  
成人期：25～39歳  
壮年期：40～64歳  
高齢期：65歳以上

図 2.3 ライフステージ構成割合〔性別〕



年齢構成割合をH24年調査と比較すると、男性の「70歳代」が1.8ポイント低くなっています。H28年調査と比較すると、男性の「40歳代」が1.5ポイント低くなっています。

表2 年齢構成割合〔経年比較〕

単位：%、ポイント

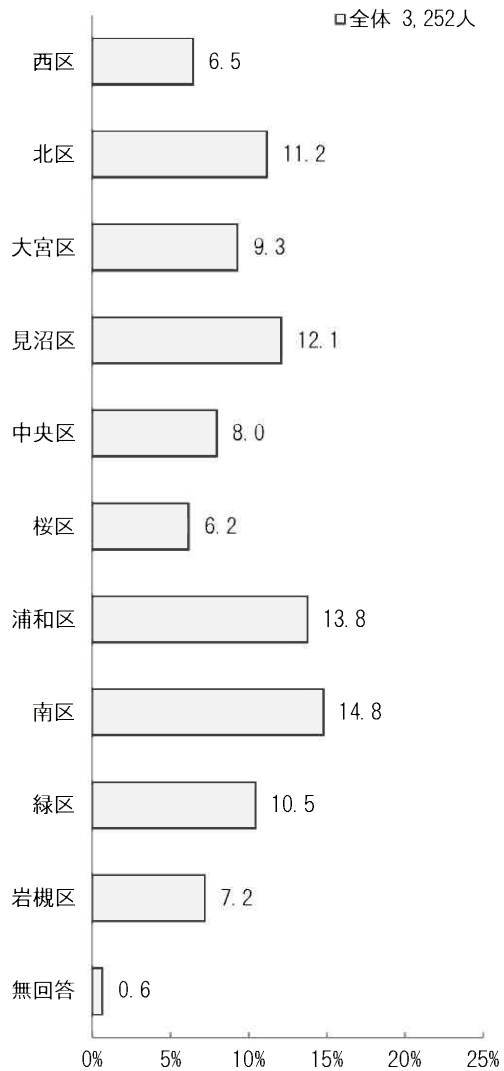
項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
全体（上段：人） （下段：%）	2,407 100.0	2,440 100.0	2,345 100.0	-62 —	-95 —
男性計	45.0	43.9	43.8	-1.2	-0.1
10歳代	4.9	5.7	6.3	1.4	0.6
20歳代	4.5	3.4	3.7	-0.8	0.3
30歳代	4.4	5.0	5.3	0.9	0.3
40歳代	4.9	6.0	4.5	-0.4	-1.5
50歳代	6.6	5.9	6.1	-0.5	0.2
60歳代	8.5	8.1	8.6	0.1	0.5
70歳代	8.0	6.8	6.2	-1.8	-0.6
80歳以上	3.0	3.0	3.0	0.0	0.0
女性計	54.5	55.0	54.8	0.3	-0.2
10歳代	5.9	6.0	5.9	0.0	-0.1
20歳代	5.8	5.5	5.7	-0.1	0.2
30歳代	8.0	8.0	7.8	-0.2	-0.2
40歳代	7.4	8.0	8.0	0.6	0.0
50歳代	8.3	8.4	8.9	0.6	0.5
60歳代	9.8	10.3	9.2	-0.6	-1.1
70歳代	6.5	5.5	5.8	-0.7	0.3
80歳以上	2.6	3.0	3.2	0.6	0.2
その他・無回答	0.5	1.1	1.4	0.9	0.3

### Ⅲ 調査結果

#### (3) あなたは何区に住んでいますか。(〇は1つだけ) < A・B共通：問3 >

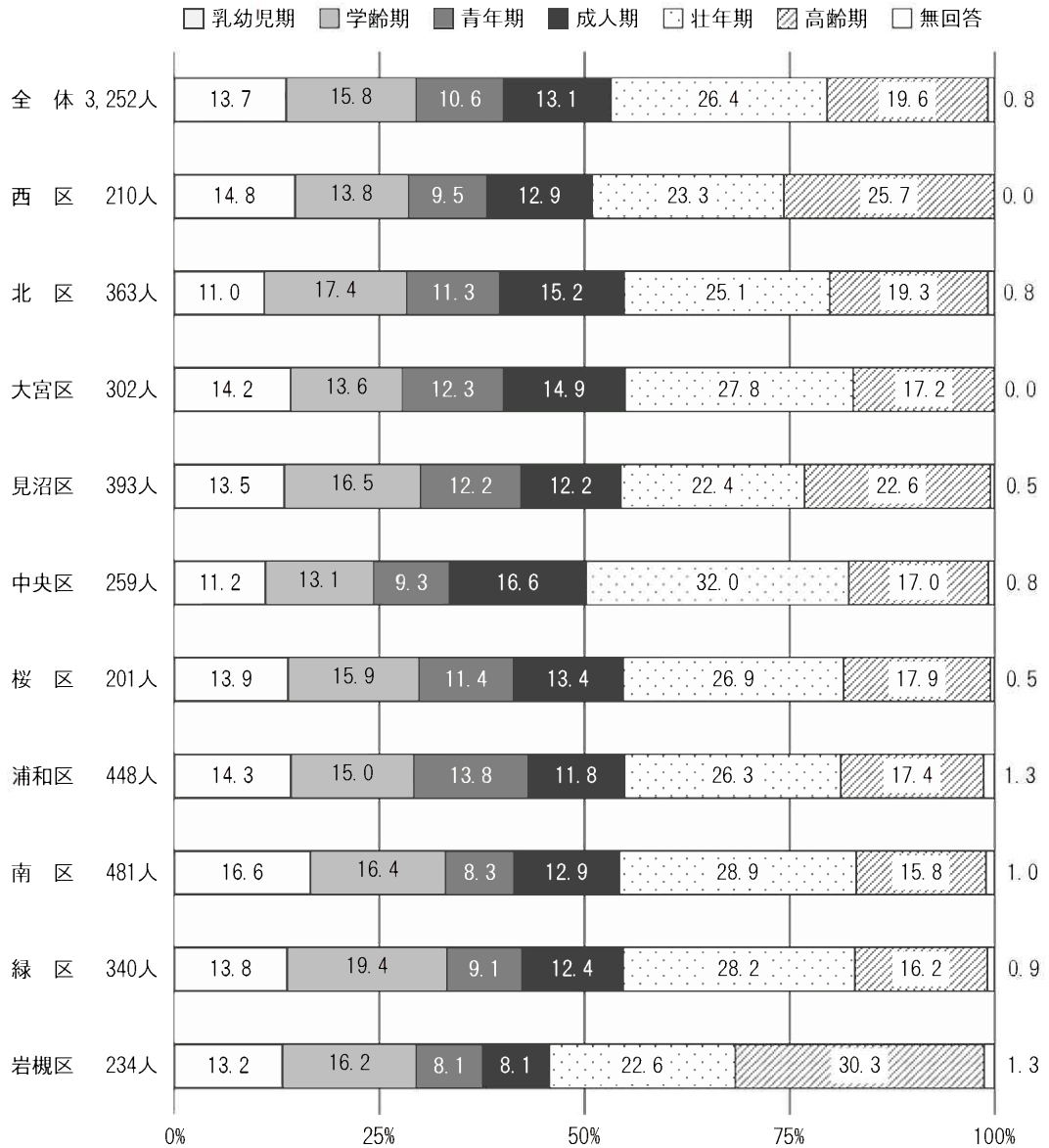
居住区は、全年齢(A・B合算)では「南区」が14.8%と最も高く、次いで「浦和区」が13.8%となっています。

図3.1 居住区(C：全年齢(A・B合算)) [全体]



ライフステージ構成割合を居住区別にみると、「乳幼児期」は「南区」が16.6%と有意に高く、「青年期」は「浦和区」が13.8%と他区より有意に高くなっています。また、「成人期」は「中央区」が16.6%と最も高く、「壮年期」は「中央区」が32.0%と有意に高くなっています。「高齢期」は「岩槻区」と「西区」が有意に高くなっています。

図3.2 ライフステージ構成割合（C：全年齢（AB合算））〔居住区別〕\*\*



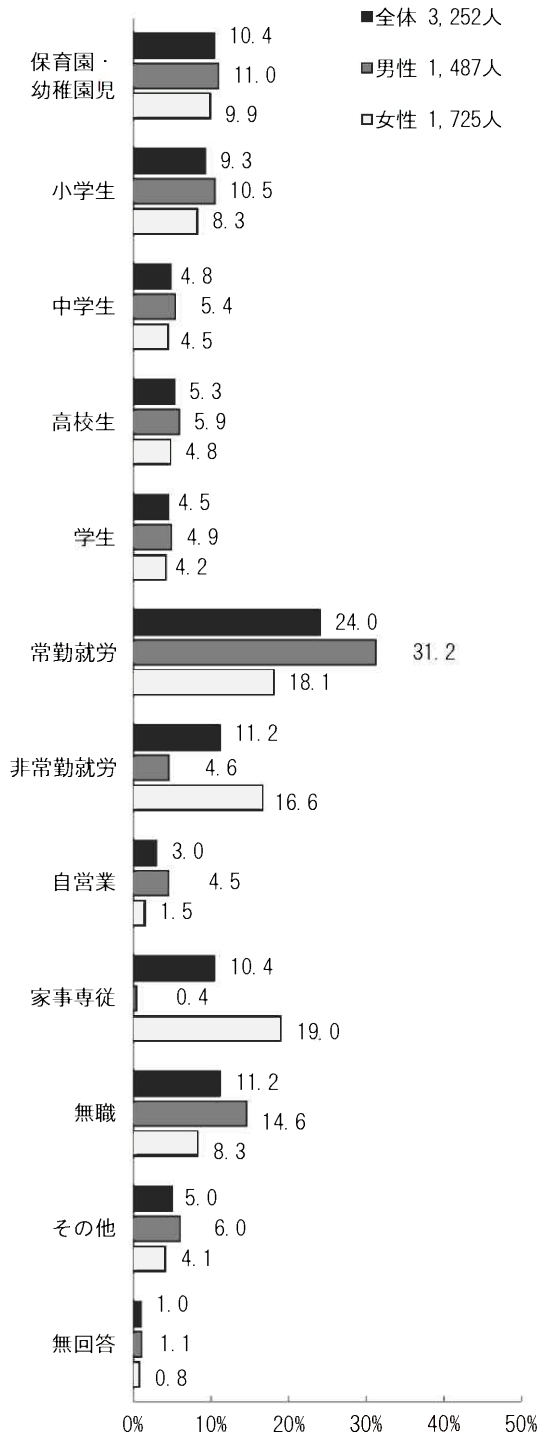
Ⅲ 調査結果

(4) 現在、お子さんは（あなたは）次のどれにあてはまりますか。（○は1つだけ）

< A・B共通：問4 >

現在の学校・就労状況は、全年齢（AB合算）では「常勤就労」が24.0%と最も高く、次いで「非常勤就労」と「無職」がともに11.2%となっています。

図4 学校・就労状況（C：全年齢（AB合算））〔全体・性別〕





現在の学校・就労状況をH24年調査と比較すると、「常勤就労」が5.9ポイント増加し他の就労状況より有意に高くなっています。また、「家事専従」が4.4ポイント有意に減少しています。

H28年調査と比較すると、「常勤就労」が3.0ポイント増加し、「無職」が1.7ポイント減少しています。

表 4.1 学校・就労状況（B：15歳以上調査）〔経年比較〕

単位：％、ポイント

\*\*

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
常勤就労	27.4	30.3	33.3	5.9	3.0
非常勤就労	13.8	16.1	15.5	1.7	-0.6
自営業	5.9	4.3	4.1	-1.8	-0.2
家事専従/専業主婦	18.9	15.8	14.5	-4.4	-1.3
中学生・高校生・ 学生/生徒・学生	12.3	13.2	14.0	1.7	0.8
無職	19.2	17.2	15.5	-3.7	-1.7
その他	1.6	1.9	1.9	0.3	0.0
無回答	1.0	1.1	1.3	0.3	0.2

現在の学校・就労状況を性・年代別にみると、男性では「20歳代」～「50歳代」で「常勤就労」が他の年代より有意に高くなっています。女性では、「20歳代」～「40歳代」で「常勤就労」が、「40歳代」～「60歳代」で「非常勤就労」が、いずれも有意に高くなっています。

表 4.2 学校・就労状況〔性・年代別〕

単位：％

項目	回答者数 (人)	常勤就労	非常勤就労	自営業	家事専従	中学生	高校生	学生	無職	その他	無回答
全体	2,345	33.3	15.5	4.1	14.5	0.3	7.4	6.3	15.5	1.9	1.3
男性計 **	1,026	45.2	6.6	6.5	0.6	0.6	8.6	7.1	21.2	2.0	1.6
10歳代	148	3.4	0.0	0.0	0.0	4.1	59.5	31.8	0.7	0.0	0.7
20歳代	86	57.0	3.5	2.3	1.2	0.0	0.0	30.2	3.5	2.3	0.0
30歳代	125	87.2	7.2	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.8	0.8
40歳代	105	86.7	1.9	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	1.0
50歳代	143	79.0	3.5	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	1.4	1.4
60歳代	201	43.3	15.4	10.4	0.5	0.0	0.0	0.0	27.4	2.5	0.5
70歳代	146	4.8	11.6	11.0	2.1	0.0	0.0	0.0	59.6	4.8	6.2
80歳以上	69	2.9	0.0	5.8	1.4	0.0	0.0	0.0	82.6	5.8	1.4
女性計 **	1,286	24.3	22.3	2.0	25.4	0.2	6.4	5.6	11.1	1.6	1.1
10歳代	139	2.9	0.0	0.0	0.0	1.4	59.0	36.0	0.0	0.7	0.0
20歳代	134	58.2	12.7	0.0	6.7	0.0	0.0	14.9	5.2	1.5	0.7
30歳代	184	50.5	22.3	1.1	18.5	0.0	0.0	0.5	4.9	1.6	0.5
40歳代	188	33.5	35.1	4.3	21.8	0.0	0.0	0.0	4.3	0.5	0.5
50歳代	208	26.0	42.8	2.4	22.1	0.0	0.0	0.0	5.3	1.0	0.5
60歳代	216	7.4	29.2	2.3	44.4	0.0	0.0	0.5	12.5	2.8	0.9
70歳代	136	2.2	7.4	3.7	52.9	0.0	0.0	0.0	27.9	2.2	3.7
80歳以上	76	0.0	0.0	1.3	36.8	0.0	0.0	0.0	55.3	2.6	3.9

Ⅲ 調査結果

(5) 現在、家族構成（世帯）は次のどれにあてはまりますか。（〇は1つだけ）

< A・B共通：問5 >

家族構成は、0～14歳調査では「子どもと親（二世帯同居）」が87.0%と最も高く、次いで「子どもと親と祖父母（三世帯同居）」が6.7%となっています。15歳以上調査では「親と子ども（二世帯同居）」が49.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が23.6%となっています。H24年調査と比較すると、「その他」が6.2ポイント有意に増加しています。H28年調査と比較すると、「親と子ども夫婦と孫（三世帯同居/三世帯家族）」が1.4ポイント減少しています。

図 5.1 家族構成（A：0～14歳調査）〔全体・性別〕

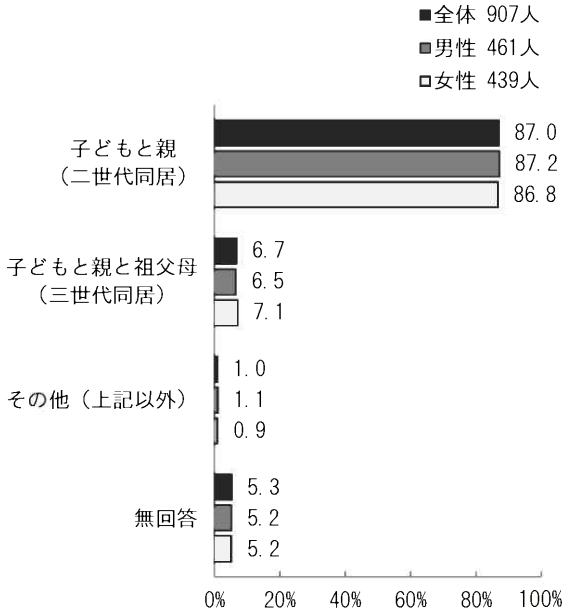


図 5.2 家族構成（B：15歳以上調査）〔全体・性別〕

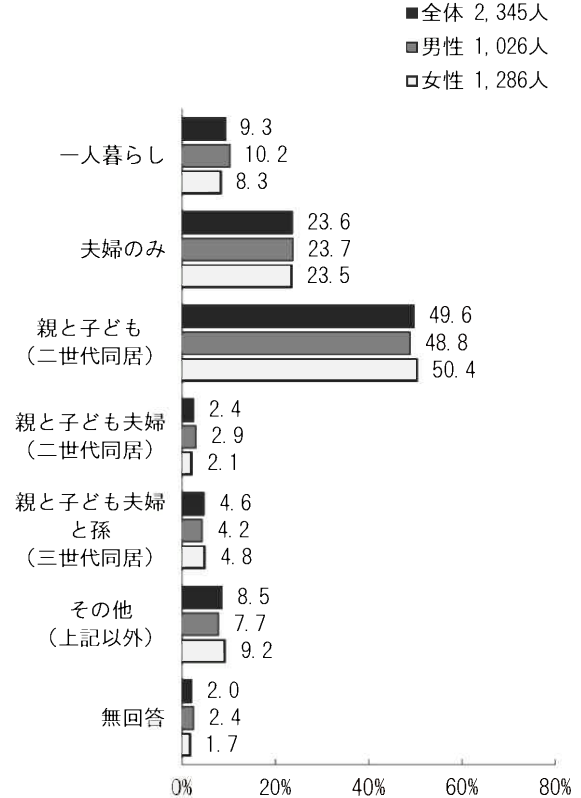


表 5 家族構成（B：15歳以上調査）〔経年比較〕

単位：%、ポイント

\*\*

項目	H24年調査	H28年調査	今回調査	今回調査－ H24年調査	今回調査－ H28年調査
一人暮らし	9.3	9.2	9.3	0.0	0.1
夫婦のみ	22.9	22.4	23.6	0.7	1.2
親と子ども (二世帯同居/核家族)	50.0	48.8	49.6	-0.4	0.8
親と子ども夫婦 (二世帯同居/二世帯家族)	7.0	3.0	2.4	-4.6	-0.6
親と子ども夫婦と孫 (三世帯同居/三世帯家族)	7.1	6.0	4.6	-2.5	-1.4
その他 (上記以外)	2.3	9.2	8.5	6.2	-0.7
無回答	1.3	1.4	2.0	0.7	0.6

(6) 身長と体重を教えてください。(数字を記入→各指数による肥満度判定)

< A・B共通：問6 >

1～5歳のカウプ指数\*による肥満度は、「やせぎみ」が12.4%、「正常」が50.5%、「肥満ぎみ」が20.7%となっています。  
 H29年調査と比較すると、「肥満ぎみ」が5.0ポイント増加しています。

図 6.1 カウプ指数による肥満度判定 (A : 0～14歳調査<1～5歳のみ>) [全体・性別]

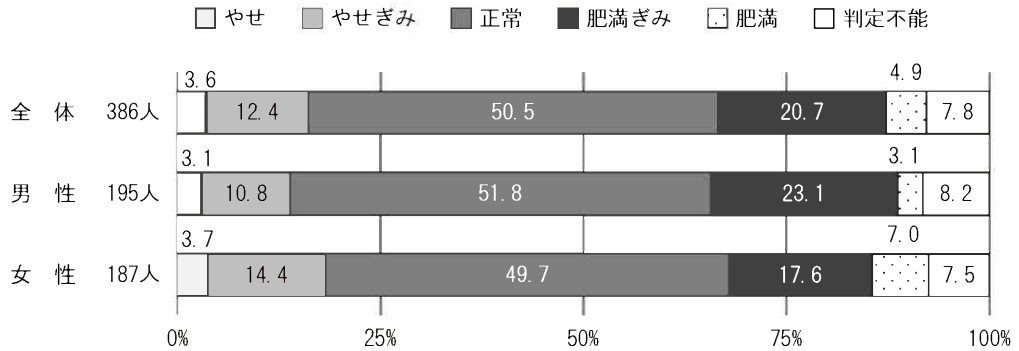
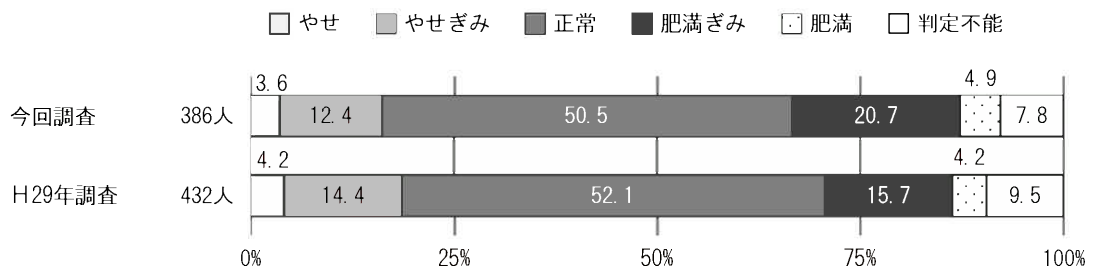


図 6.2 カウプ指数による肥満度判定 (A : 0～14歳調査<1～5歳のみ>) [経年比較]



※カウプ指数

生後3か月から5歳までの乳幼児に対して、肥満や、やせなど発育の程度を表す指数。「体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)」で算出される数値を月齢(年齢)別の基準にあてはめて判定。

	やせ	やせぎみ	正常	肥満ぎみ	肥満
1歳	14.5未満	14.5以上 15.5未満	15.5以上 17.5未満	17.5以上 19.5未満	19.5以上
2歳	13.5未満	13.5以上 15.0未満	15.0以上 16.5未満	16.5以上 18.5未満	18.5以上
3歳	13.5未満	13.5以上 14.5未満	14.5以上 16.5未満	16.5以上 18.0未満	18.0以上
4歳	13.0未満	13.0以上 14.5未満	14.5以上 16.5未満	16.5以上 18.0未満	18.0以上
5歳	13.0未満	13.0以上 14.5未満	14.5以上 16.5未満	16.5以上 18.5未満	18.5以上

Ⅲ 調査結果

6～14歳のローレル指数※による肥満度は、「やせぎみ」が22.0%、「正常」が53.0%、「肥満ぎみ」が10.0%となっています。  
 H29年調査と比較すると、「やせぎみ」が、3.8ポイント減少し、「肥満ぎみ」が3.8ポイント増加しています。

図 6.3 ローレル指数による肥満度判定（A：0～14歳調査＜6～14歳のみ＞）〔全体・性別〕

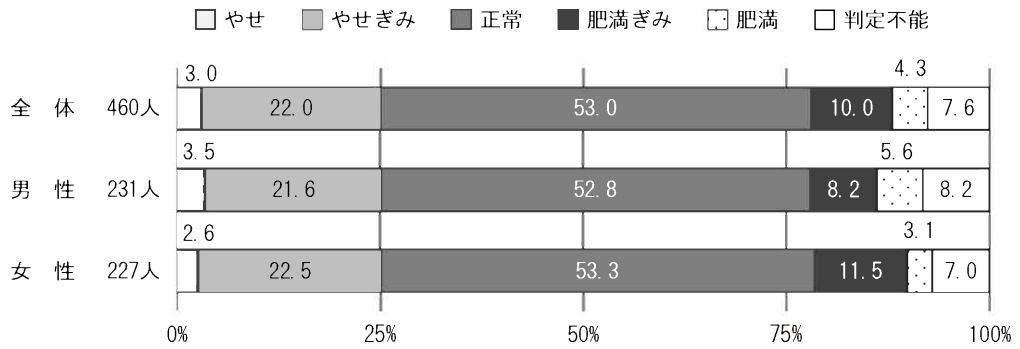
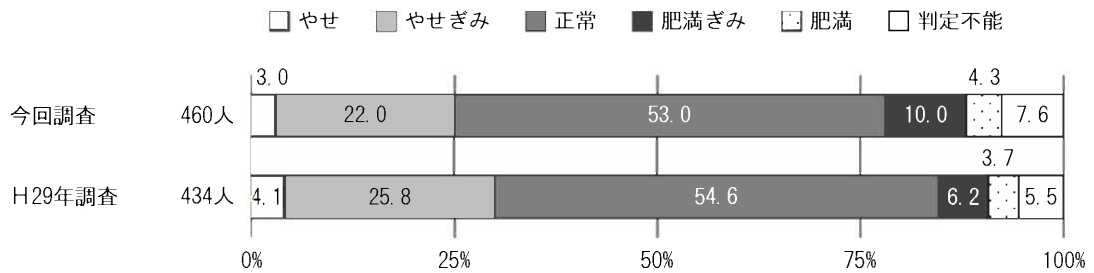


図 6.4 ローレル指数による肥満度判定（A：0～14歳調査＜6～14歳のみ＞）〔経年比較〕



※ローレル指数

学童期の肥満度を評価する指数。「体重(kg)÷身長(m)<sup>3</sup>×10」で算出される。

やせ	やせぎみ	正常	肥満ぎみ	肥満
100未満	100以上 115未満	115以上 145未満	145以上 160未満	160以上

6～15歳の学校保健会肥満度\*は「やせ」が3.9%、「普通」が80.7%、「軽度肥満」が4.3%となっています。

H29年調査と比較すると、「軽度肥満」が0.9ポイント、「中程度肥満」が1.0ポイント増加しています。

表 6.1 学校保健会肥満度による肥満度判定（C：全年齢（AB合算）＜6～15歳のみ＞）〔全体・性別〕単位：%

項目	回答者数 (人)	高度やせ	やせ	普通	軽度肥満	中程度肥満	高度肥満	判定不能
全体	514	0.4	3.9	80.7	4.3	2.7	0.4	7.6
男性	256	0.8	4.7	77.7	3.9	3.9	0.8	8.2
女性	256	0.0	3.1	84.4	4.7	1.6	0.0	6.3

表 6.2 学校保健会肥満度による肥満度判定（C：全年齢（AB合算）＜6～15歳のみ＞）〔経年比較〕単位：%

項目	回答者数 (人)	高度やせ	やせ	普通	軽度肥満	中程度肥満	高度肥満	判定不能
今回調査	514	0.4	3.9	80.7	4.3	2.7	0.4	7.6
H29年調査	473	0.6	3.0	85.0	3.4	1.7	0.8	5.5

※学校保健会 肥満度

学童期の肥満度を評価する指数。「(実測体重－身長別標準体重)÷身長別標準体重×100(%)」で算出される。

高度やせ	やせ	普通	軽度肥満	中程度肥満	高度肥満
-30%以下	-30%超-20%以下	-20%超~+20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 50%未満	50%以上

計画における数値目標のデータ



適正体重の人の割合

- ・学齢期（6～15歳） 80.7%（目標値 増える（ベース値 85.0%））  
 <問6の身長と体重による（公財）日本学校保健会の肥満度判定が「普通」の割合>

Ⅲ 調査結果

BMI\*による肥満度は、「やせ」が10.5%、「標準」が65.6%、「肥満」が19.7%となっています。

性別にみると、男性は「肥満」が25.8%と、女性より10.6ポイント有意に高くなっています。

H28年調査と比較すると、「肥満」が3.7ポイント増加しています。

図 6.5 BMIによる肥満度判定（B：15歳以上調査）〔全体・性別〕\*\*

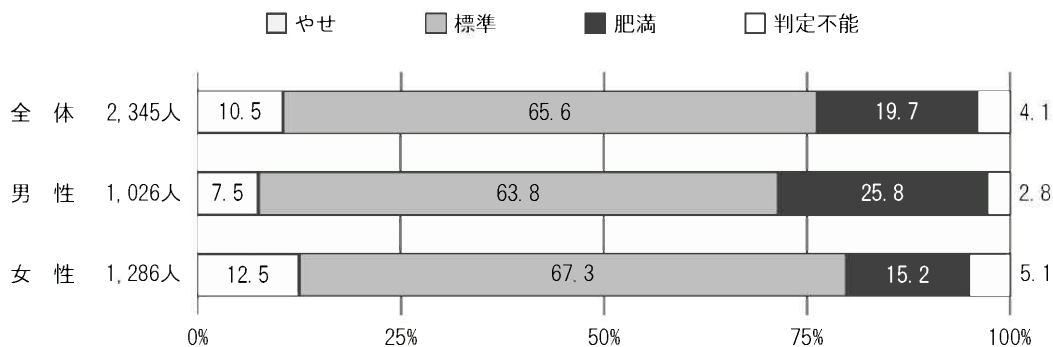
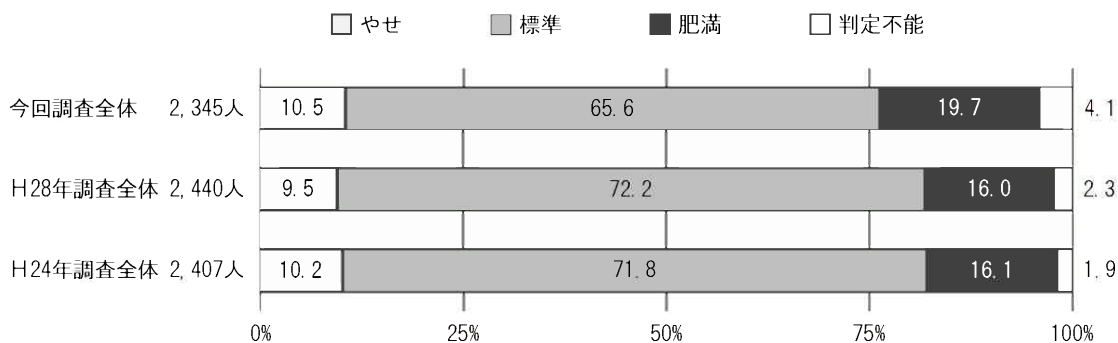


図 6.6 BMIによる肥満度判定（B：15歳以上調査）〔経年比較〕



ビーエムアイ

※BMI（Body Mass Index／ボディ・マス・インデックス）

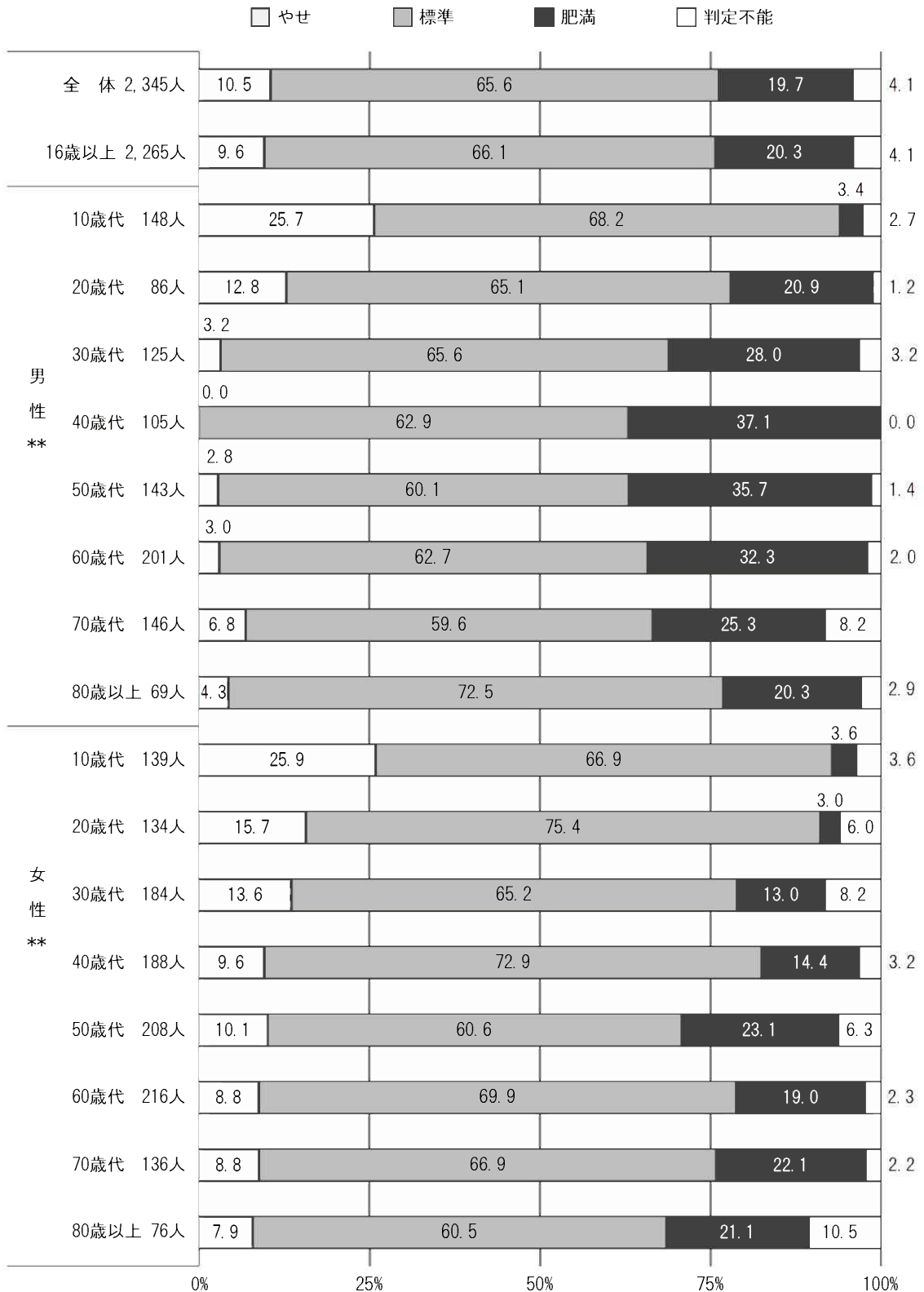
1997年に世界保健機関（WHO）が発表した肥満度判定基準。「体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)」で算出される。

やせ	標準	肥満
18.5未満	18.5以上25.0未満	25.0以上

肥満度を性・年代別にみると、男性では「やせ」が「10歳代」で25.7%と有意に高くなっており、「肥満」が「40歳代」で37.1%、「50歳代」で35.7%、「60歳代」で32.3%と他の年代より有意に高くなっています。

女性では、「やせ」が「10歳代」で25.9%と有意に高くなっており、「肥満」が「50歳代」で23.1%、「70歳代」で22.1%と有意に高くなっています。

図 6.7 BMIによる肥満度判定〔性・年代別〕



Ⅲ 調査結果

肥満度をH24年調査と比較すると、男性では「肥満」が「40歳代」で14.4ポイント増加しており、女性では「肥満」が「50歳代」で9.0ポイント増加といずれも有意に高くなっています。H28年調査と比較すると、男性では「肥満」が「80歳以上」で12.1ポイント増加、女性では「肥満」が「30歳代」で6.4ポイント増加、「50歳代」で8.5ポイント増加といずれも有意に高くなっています。

表 6.3 BMIによる肥満度判定〔経年比較〕

単位：％

項目	H24年調査			H28年調査			今回調査		
	やせ	標準	肥満	やせ	標準	肥満	やせ	標準	肥満
全体	10.2	71.8	16.1	9.5	72.2	16.0	10.5	65.6	19.7
男性計	6.0	71.4	21.3	6.2	71.4	20.8	7.5	63.8	25.8
10歳代	18.5	74.8	5.0	15.8	78.4	2.2	25.7	68.2	3.4
20歳代	7.4	74.1	16.7	15.7	72.3	12.0	12.8	65.1	20.9
30歳代	3.7	64.5	29.0	5.7	71.5	20.3	3.2	65.6	28.0
40歳代	1.7	75.6	22.7	2.0	68.7	27.9	0.0	62.9	37.1
50歳代	3.1	67.9	28.9	4.9	61.5	32.2	2.8	60.1	35.7
60歳代	3.4	72.5	22.5	3.0	70.6	25.9	3.0	62.7	32.3
70歳代	6.6	70.3	22.4	3.0	71.7	24.7	6.8	59.6	25.3
80歳以上	5.5	74.0	19.2	4.1	82.2	8.2	4.3	72.5	20.3
女性計	13.7	72.7	11.8	12.3	73.4	12.2	12.5	67.3	15.2
10歳代	19.7	73.9	3.5	19.0	76.2	2.0	25.9	66.9	3.6
20歳代	25.2	70.5	3.6	20.1	73.9	5.2	15.7	75.4	3.0
30歳代	12.0	77.6	7.8	10.7	79.6	6.6	13.6	65.2	13.0
40歳代	15.2	65.7	16.9	8.2	76.4	12.8	9.6	72.9	14.4
50歳代	8.0	76.9	14.1	12.1	73.3	14.6	10.1	60.6	23.1
60歳代	10.2	74.6	14.8	8.4	69.3	20.7	8.8	69.9	19.0
70歳代	11.5	67.9	17.3	9.6	74.1	16.3	8.8	66.9	22.1
80歳以上	12.7	69.8	14.3	19.2	57.5	15.1	7.9	60.5	21.1

注) 身長・体重の無回答は省略しているため、合計は100%にならない。

表 6.4 BMIによる肥満度判定〔経年比較〕

単位：ポイント

項目	今回調査－H24年調査			今回調査－H28年調査		
	やせ	標準	肥満	やせ	標準	肥満
全体	0.3	-6.2	3.6	1.0	-6.6	3.7
男性計	1.5	-7.6	4.5	1.3	-7.6	5.0
10歳代	7.2	-6.6	-1.6	9.9	-10.2	1.2
20歳代	5.4	-9.0	4.2	-2.9	-7.2	8.9
30歳代	-0.5	1.1	-1.0	-2.5	-5.9	7.7
40歳代	-1.7	-12.7	14.4	-2.0	-5.8	9.2
50歳代	-0.3	-7.8	6.8	-2.1	-1.4	3.5
60歳代	-0.4	-9.8	9.8	0.0	-7.9	6.4
70歳代	0.2	-10.7	2.9	3.8	-12.1	0.6
80歳以上	-1.2	-1.5	1.1	0.2	-9.7	12.1
女性計	-1.2	-5.4	3.4	0.2	-6.1	3.0
10歳代	6.2	-7.0	0.1	6.9	-9.3	1.6
20歳代	-9.5	4.9	-0.6	-4.4	1.5	-2.2
30歳代	1.6	-12.4	5.2	2.9	-14.4	6.4
40歳代	-5.6	7.2	-2.5	1.4	-3.5	1.6
50歳代	2.1	-16.3	9.0	-2.0	-12.7	8.5
60歳代	-1.4	-4.7	4.2	0.4	0.6	-1.7
70歳代	-2.7	-1.0	4.8	-0.8	-7.2	5.8
80歳以上	-4.8	-9.3	6.8	-11.3	3.0	6.0



計画における数値目標のデータ



やせの割合

- ・20歳代女性 15.7% (目標値 15%以下)  
 <問6の身長と体重によるBMIが18.5未満の割合>



肥満者の割合

- ・20~60歳代 男性 31.5% (目標値 14%以下)
- ・40~60歳代 女性 19.0% (目標値 13%以下)
- ・40歳代 男性 37.1% 女性 14.4% (目標値 14%・13%以下)
- ・50歳代 男性 35.7% 女性 23.1% (目標値 14%・13%以下)
- ・60歳代 男性 32.3% 女性 19.0% (目標値 14%・13%以下)
- <問6の身長と体重によるBMIが25.0以上の割合>

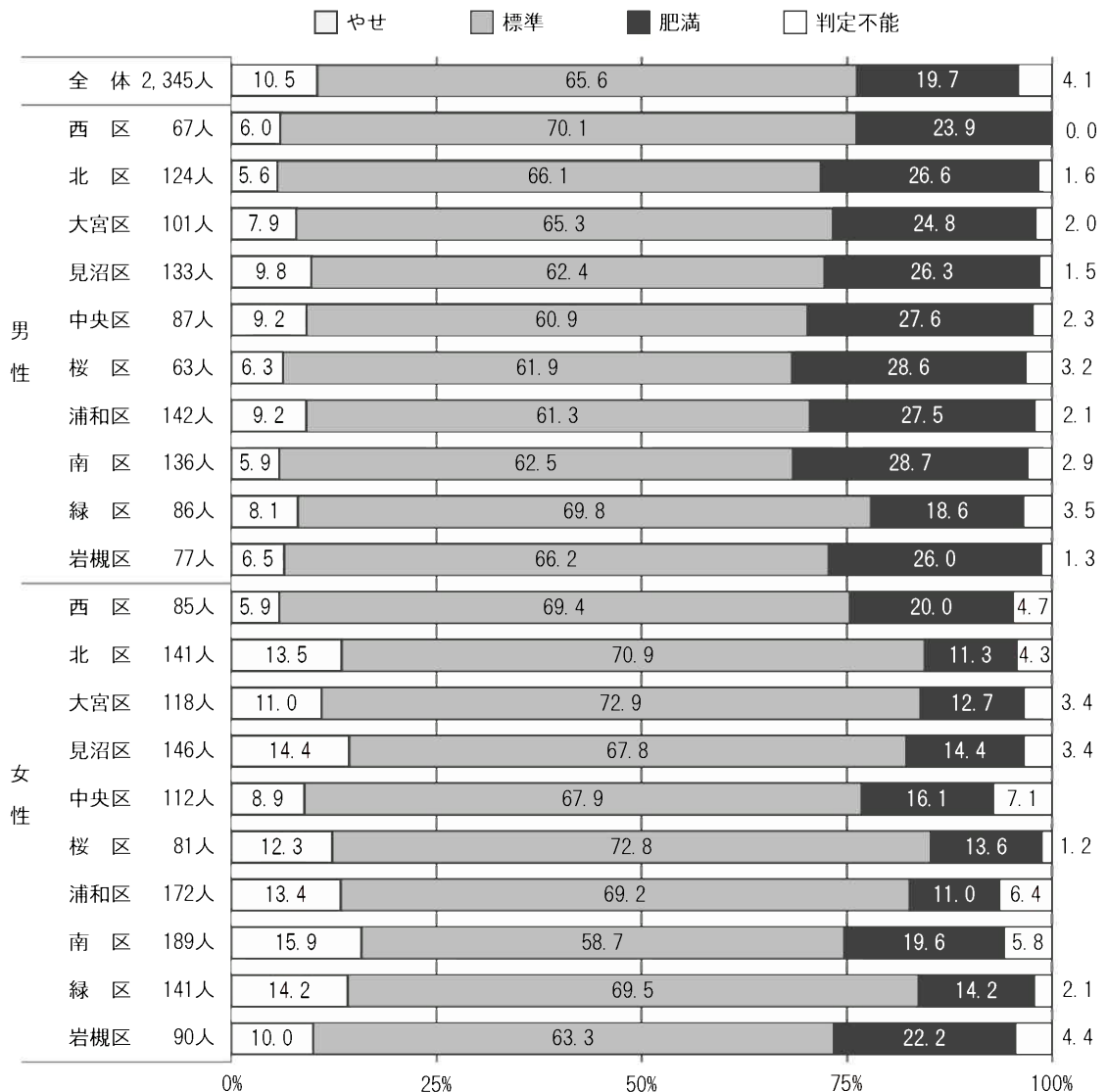


適正体重の人の割合

- ・16歳以上 66.1% (目標値 80%以上)
- <問6の身長と体重によるBMIが18.5以上25.0未満の割合>

肥満度を性・居住区別にみると、男性の「肥満」では、「南区」が28.7%と最も高く、次いで「桜区」が28.6%となっています。女性の「肥満」では、「岩槻区」が22.2%と最も高く、次いで「西区」が20.0%となっています。

図 6.8 BMIによる肥満度判定〔性・居住区別〕



Ⅲ 調査結果

(7) あなたの加入している健康保険は何ですか。(〇は1つだけ) <B:問7>

加入している健康保険は、「国民健康保険」が30.6%と最も高く、次いで「被用者保険（組合健保）」が28.1%、「被用者保険（協会けんぽ）」が15.6%となっています。

図7 健康保険〔全体・性別〕

